

令和7年度

学校説明会資料

矢向中学校ブロック共通目標

輝く未来を切り拓く、たくましい子どもを育てます。

新鶴見小学校教育目標

しんじる つながる みちをひらく 新・鶴・見！



あえて「教育目標」にしたのは、
学校だけでなく地域・保護者と共
に達成する目標だからです。

教育目標

♡ しんじる



つながる



みちをひらく
新・鶴・見！

「しんじる」…自分を信じ、

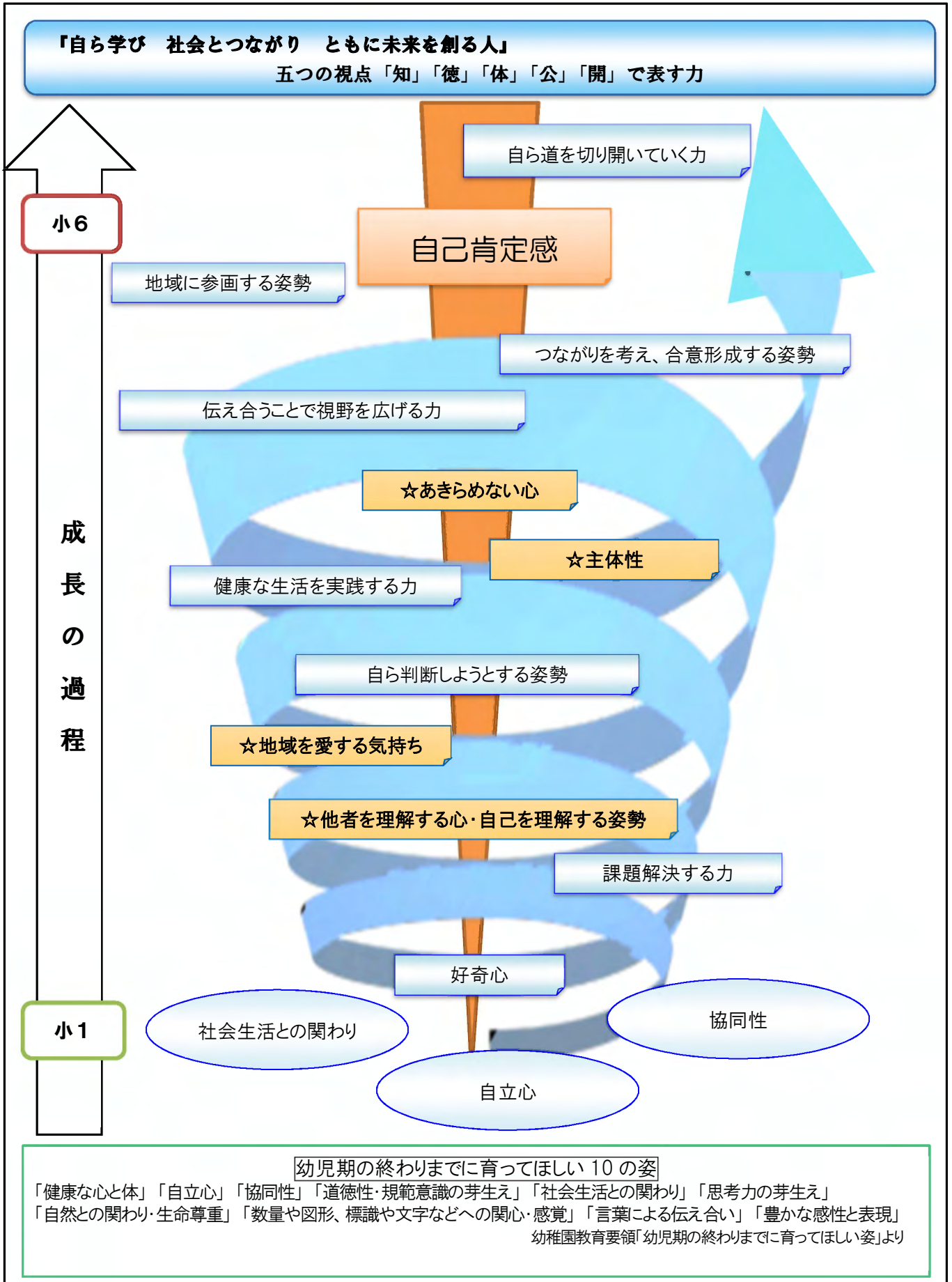
「つながる」…仲間と、地域とつながり、

「みちをひらく」…未知なる道を、自分たちの力で切り拓く子。

目指す子ども像

育てる心・体・力

- ①知：興味をもって、自ら進んで学習に取り組む力を育てます。
- ②徳：自ら判断する力と、人を思いやる心を育てます。
- ③体：自ら運動に親しみ、健やかな心と体を育てます。
- ④公：人とのつながりを大切にし、地域を愛する心を育てます。
- ⑤開：多様な考えを認め合い、共に生きていく力を育てます。



学校教育目標	「しんじる つながる みちをひらく 新・鶴・見！」 ①興味をもって、自ら進んで学習に取り組む力を育てます。(知) ②自ら判断する力と、人を思いやる心を育てます。(徳) ③自ら運動に親しみ、すこやかな心と体を育てます。(体) ④人とのつながりを大切にし、地域を愛する心を育てます。(公) ⑤多様な考えを認め、共に生きていく力を育てます。(関)				
	学校概要	創立 30 周年	学校長 田名部 和美	副校長 岡村 眞	2 学期制 一般学級: 27 個別支援学級: 10
児童生徒数: 887 人		主な関係校: 矢向中学校 矢向小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	矢向中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自立と貢献」 ＜社会的自立・自己実現力＞ ＜協働・共生力＞ ＜自他の幸福追求力＞	矢向中学校 矢向小学校 新鶴見小学校	輝く未来を切り拓く、たくましい子 ○「児童生徒の幸福実現を目指す支援・指導」 ○義務教育終了時の「自立・貢献」実現を目指す9年間の教育活動 ○授業体験と部活動体験を通じた児童生徒交流 ○重点研・校内授業研の相互参加。学力向上に向けた研究協議会

中期取組目標	○教育目標の実現に向けて、自分を信じ、仲間と地域とつながり、未知なる道を自分たちの力で切り拓く子どもの育成を目指します。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの思いや考えを大切にしながら、子どもが自ら学び進む授業づくりを進めます。 ・誰もが安全に安心して、楽しく学校生活が送れるよう、一人ひとりをしっかりと見取り、丁寧に寄り添います。 ・地域の人たちとのつながりを大事にし、豊かな体験やかかわりを通して、地域を愛する心を育てます。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①子どもたちが主体的に取り組むことができる授業を目指し、単元開発や教材研究に取り組み、教師の授業力向上を図る。また、外部の研修にも積極的に参加し、日々の授業実践に生かしていく。 ②重点研究テーマ「算数って、おもしろいかも!? ～わかった・できたを自覚できる授業を目指して～」に向かって算数科を中心に取り組み、子どもが主体的に学ぶ授業づくりを目指す。
担当	教育課程・評価部 重点推進	
徳	道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を中心に各教科の学習において、自他を思いやる心を育てていくようにする。 ②全学級の道徳科授業公開を年一回以上行い、心の教育の実践について保護者に啓発していく。
担当	道徳部	
体	健康教育 食育	①年間カリキュラムを見直し、低中高ブロックのつながりを意識して授業づくりに取り組み。学校全体として割り当てを無駄なく実施し時数を確保するために、学年間で相談したり、2クラス同時に場を活用したりするなど工夫をしていく。 ②規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、養護教諭と担任が連携しながら、保健学習の充実を図る。また、栄養教諭と担任が連携して、食育タイムや教科学習、給食時間の食育に取り組み、児童の食に対する意識をさらに高める。
担当	体育・食育部	
公開	地域学校 協働活動	①しんつるサポーターズ(地域学校協働本部)、スクールパートナーと連携しながら、保護者・地域人材の協力を得て、教育活動の充実を図る。年度初めに一括してボランティア登録をする仕組みを活用して、計画的に様々な方の協力を得る。 ②学校運営協議会に様々な立場の教職員が出席し、学校の現状について意見交換するとともに、委員が授業や行事を参観する機会を設け、子どもの姿を共有しながら、地域と共に歩む学校運営を目指す。 ③30周年行事に向けて、地域の方々・保護者とともに準備を進め実施する。
担当	教育活動部	
いじめへの対応		①いじめの未然防止のために、児童に関する組織的な情報共有やいじめアンケート等の取組を実施する。さらに、ホームページ等を通して、いじめ対応への学校の取組や方針を積極的に伝えていく。 ②いじめやいじめにつながる案件について、基本方針に則り、いじめ防止対策委員会を中心に、迅速かつ丁寧に組織的な対応を行っていく。
担当	指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①会議の内容を精選し、運営方法を改善することで働き方改革を目指す。学校運営上の課題を明確にし、教職員全員が強みを生かしつつ学校運営に参画できることを目指す。 ②メンターチーム研修の柱を明確にし、教科研修を中心にした自発的な取組を学校全体で支えていく。学習指導・児童支援の実践力向上につなげる。
担当	主任会・メンター研	
特別支援教育		①学年間で情報を共有し、児童支援専任・特別支援コーディネーターを中心に組織的・計画的・継続的に支援していく。関係機関とも密に連携をとるとともに、支援の中長期的な見直しも図っていく。 ②個別支援の必要な児童の理解と、支援や交流学习の在り方について、教職員が共通認識をもって研修する。どの児童にとっても分かりやすいことを意識した授業づくりに取り組み。
担当	指導部	
人権教育		①学級や学年、異学年集団において交流のしかたを工夫し、行事や活動を通じて子どもが人とのつながりを感じ、互いに認め合える集団作りを目指す。 ②日々の学級指導や人権週間等を通して、人とのつながりの中から、子ども同士が認め合い、自分も他の人も大切にできる心を育成する。
担当	安心・安全部	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「しんじる つながる みちをひらく 新・鶴見！」
 ①興味をもって、自ら進んで学習に取り組む力を育てます。(知)
 ②自ら判断する力と、人を思いやる心を育てます。(徳)
 ③自ら運動に親しみ、すこやかな心と体を育てます。(体)
 ④人とのつながりを大切にし、地域を愛する心を育てます。(公)
 ⑤多様な考えを認め、共に生きていく力を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

「自立と貢献」
 <社会的自立・自己実現力>
 <協働・共生力>
 <自他の幸福追求力>

具体化した資質・能力



中期取組目標

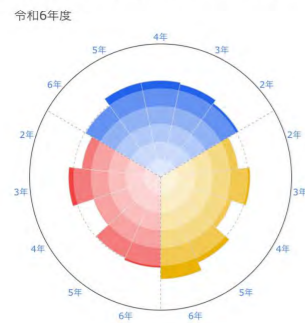
○教育目標の実現に向けて、自分を信じ、仲間と地域とつながり、未知なる道を自分たちの力で切り拓く子どもの育成を目指します。
 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの思いや考えを大切にしながら、子どもが自ら学び進む授業づくりを進めます。
 ・誰もが安全に安心して、楽しく学校生活が送れるよう、一人ひとりをしっかりと見取り、丁寧に寄り添います。
 ・地域の人たちとのつながりを大事にし、豊かな体験やかかわりを通して、地域を愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①子どもたちが主体的に取り組むことができる授業を目指し、単元開発や教材研究に取り組み、教師の授業力向上を図る。また、外部の研修にも積極的に参加し、日々の授業実践に生かしていく。 ②重点研究テーマ「算数って、おもしろいかも!? ～わかった・できたを自覚できる授業を目指して～」に向かって算数科を中心に取り組み、子どもが主体的に学ぶ授業づくりを目指す。
担当	教育課程・評価部 重点推進

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる子どもの実態
 ※横浜市学力・学習状況調査 より
 青…学力 黄…学習意識 赤…生活意識



(2) これまでの学校の取組状況
 ・総合的な学習の時間を中心として、子どもの「やりたい」「どうしてだろう」という思いを大切にしながら、授業を組み立ててきた。学びの素地が築かれ、楽しみながら意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。
 ・横断的な学習を通して、基礎的・基本的な力が高まっているものの、学習に対する意識にばらつきが見られるようになってきた。特に国語や算数に対する意識は二極化の傾向にある。
 ・子どもたちが思いをもって学習に取り組んでいることを生かして、子ども自身が「分かった・できた」を自覚し、表現できる授業づくりを目指す。

今年度の目標

「算数って、おもしろいかも!? ～わかった・できたを自覚できる授業を目指して～」
 ○子どもが変わる授業づくり
 ○子ども自身が変容を自覚できる学びづくり

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
◎子どもが変わる授業づくり ○授業や単元を終えた後に子どもの姿をイメージし、そこに向かうための逆設計を意識した授業づくり ・本時を終えた後、単元を終えた後に、どのような子供の姿を目指すのかを具体的にイメージする(どのような言葉を引き出したか)。知識・技能だけのままとならないような、具体的なゴールの姿をイメージする。 ○問いの明確化と振り返り ・「ゴールを目指すために、どのような課題を引き出すかを考えて、問いを明確にすることを大切にする。重点研究では、数学的活動を充実できるように、問いを精選し、数学的な見方・考え方を十分に働かせられるようにする。 ○授業と日常の結び付き ・学習したことを算数の教科の中だけで閉じてしまうのではなく、学習したことを使って、算数のよさや楽しさを実感できる。そのために、他教科と関連させたり、日常の問題を算数で取り上げたり、学習したことを日常に返したりしながら、算数を開いた教科としていきたい。	◎子どもが変わる授業づくり ○子ども自身が変容を自覚できる学びづくり ○何ができるようになったかを自覚する振り返りの充実 上半期から取り組んでいる振り返り(算数日記・学習感想)を継続することで、自分の成長を自覚できるようにしていきたい。 「今までやったことが使える。他の場面でも使えるかも。」 「わかりやすく説明できた。違う場面でも同じように説明できそう。」 「違うやり方に見えるけど、同じ考えじゃないかな。」という言葉を引き出せるよう、既習を日頃の学習から取り上げる機会を増やした授業にする。 ○自分で学びをつくる ・学んだことを、次につながる視点を子どもにも育てていきたい。子ども自身が主体的に学んでいく姿勢をつくる。そのために、振り返りを充実させていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を中心に各教科の学習において、自他を思いやる心を育てていくようにする。 ②全学級の道徳科授業公開を年一回以上行い、心の教育の実践について保護者に啓発していく。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

本校の子どもは、素直で元気、且つ穏やかに学校生活を過ごしている。

人と接することが好きな子どもが多く、ペア活動なども積極的に関わる姿が見られる。反面、距離感が近すぎてトラブルが起きることもある。トラブルが起きるときには、言葉でのコミュニケーションがたりないことから起きることが多い。学級活動や交流活動で、よりよい関わり方を学ぶ場や環境づくりが必要と考えられる。

また、互いの個性を尊重し、地域・社会の一員として自発的に行動できるよう、授業づくりなど教育活動に取り組んでいる。

今年度の目標

○自他を思いやる心を育てる。
 ○子どもが人とのつながりを感じ、互いに認め合える集団作りを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

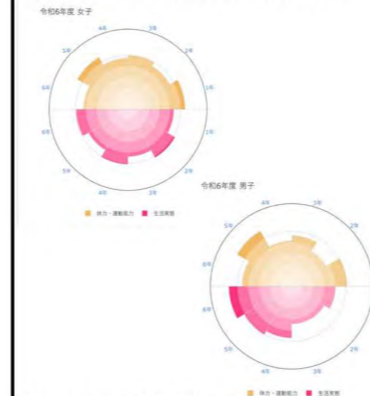
上半期	下半期
○「道徳の時間」の充実 ・道徳の授業の充実をはかる。問題解決的な学習の工夫を行い、子ども一人一人が道徳的価値のよさを理解し、価値を捉え、自分なりに発展させていくことができるように工夫する。 全学級の道徳の授業を家庭・地域(年に1回以上)公開する。 ・各学級の道徳の時間と学校の教育活動全体を通して行う道徳教育との関連を図り、体験活動を生かした指導を行う。 ○特別活動等の多様な実践活動を生かす ・特別活動において道徳的価値を意図した実践や体験活動を年間指導計画に位置付け、身の回りにおける人・自然・社会と繰り返し関わる体験活動を豊かに行う。 ・体験活動を通して、共通の関心などを基に、問題意識を高めたり、関わった方の考え方や価値観を学んだりしていくことができるようにする。	○「道徳の時間」の充実 ・道徳教育について、家庭、地域に発信し意識の啓発を図る。 ・ロイノート等に残した子どもの振り返りを保護者と共有し、道徳教育の充実を感じてもらえることを目指す。 ○体験活動の充実 ・体験活動を充実させることで、思いやりの心や社会性を養うことにつながるよう、規範意識、望ましい勤労観や職業観について考えていくことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育	①年間カリキュラムを見直し、低中高ブロックのつながりを意識して授業づくりに取り組む。学校全体として割り当てを無駄なく実施し時数を確保するために、学年間で相談したり、2クラス同時に場を活用したりするなど工夫をしていく。 ②規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、養護教諭と担任が連携しながら、保健学習の充実を図る。また、栄養教諭と担任が連携して、食育タイムや教科学習、給食時間の食育に取り組み、児童の食に対する意識をさらに高める。
担当	体育・食育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる子ども生徒の実態



(2) これまでの学校の取り組み状況と成果
 ○体力や運動能力についての回答から、男子女子ともに平均値より低い学年が多いことがわかる。また、奇数学年が偶数学年より数値が高いことが分かる。
 ○養護教諭や栄養教諭と連携した授業づくりを行うことで、健康に対する意欲や知識が高まっている。
 ○食育タイムでは、教科や知識を意欲して作成したバランスメニューに取り組み中。
 ○食の学習や給食時間を楽しくにしている子どもが多いが、給食の残食率は、魚類、豆類、野菜類の残食が市の平均よりやや多く、必要性はわかっていても食べる量の増加につなげられない。

今年度の目標

○体育学習の充実と運動時間や機会の増加
 ○体や健康に関する学習、給食を教材として活用する食育を、養護教諭や栄養教諭と連携しながら、学校の教育活動全体ですすめていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○実技研修を行い、教師が低・高のつながりや運動特性を意識して授業づくりを行えるようにする。 ○効率的な体育科の授業づくりのために、教材や学習カードを共有する。 ○体育館の割当て会議を毎週行い、体育館の授業時間を効率的に確保できるようにする。 ○運動委員会の遊具貸出しやスポーツ週間を活用し、年間を通して子どもが運動に親しむ機会を増やす。 ○低学年では、食に関して興味をもてるよう、季節の食材の掲示や皮むき体験を通して、食材に触れる機会を増やす。中学年では食べ物の体内での働きを理解できるように、バランスメニューで学んだ三色分けを毎日の給食で復習できるようにする。高学年では、給食の食材の産地の表示をしたり、給食の調理工程を紹介するなど、教科学習と給食との関連を意識しながら指導していく。 ○養護教諭と栄養教諭を連携し、体育科保健学習の授業に関わったり、長期休業中に毎日の生活に関するチェックカードを配付したりするなど、規則正しい生活の定着を図る。 ○担任と養護教諭が連携して、低学年では自分の心と体について、高学年では心身の発達について理解を深める学習にも取り組む。	○子どもの思いをもとに演技を考えたり、自分の体力に合ったあてを設定したりして、子どもがスポーツフェスティバルや練習に主体的に取り組めるようにする。高学年においては、計画や運営に携わり、自己有用感を高められるようにする。 ○体力テストの結果を基に、体づくり運動の時間を中心として子どもが自分の体力と向き合いながら取り組めるような授業づくりを行う。中、高学年では体力テストのデータを活用し、客観的に体力の変化を確認できるようにする。 ○低学年では、引き続き、季節の食材に触れ、色々な食材について興味をもって、給食時間を楽しく過ごせるようにする。中学年では、保健学習で学ぶよりよい生活リズムや成長に必要な栄養素との関連を意識して、給食の栄養に関心をもてるように、栄養教諭が授業に関わったり掲示物を作成したりする。高学年では、食育タイムや特活、保健などの学習の時間で、自分の食生活を振り返る機会をつくる。さらに、具体的に改善し、よさを見つけて継続していくことに意欲をもてるようにする。 ○前期に引き続き、養護教諭が体育科保健学習等に関わり、健康や安全に関する学習が生活と結びつき、生活の中で実践できるよう支援する。